

2019年度 研究センター事業報告書

研究センター名	クリエイティブ・メディア研究センター
---------	--------------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

クリエイティブ・メディア研究センター（以下、CMRC）では、メディア実践に関わる諸問題に、人文学と理工学の研究者が領域横断的に取り組むことで、理論型研究と実践型研究の総合とその成果発信のためのグローバルなプラットフォームを構築することを目標としている。そのため、センター設置初年度である2019年度は以下の通り、センターとしての研究基盤の構築を目標として、①クリエイション部門、リサーチ部門、アーカイブ部門から構成されるCMRC構成員の個別研究と学内外の研究者間のネットワーク化を進めると共に、②各部門の有機的な連携ならびに国内外の研究者との交流を含めた研究成果の発信に重点的に取り組んだ。

①研究体制の構築

リサーチ部門では、メディア実践やクリエイティブ産業の状況、またその背景となるテーマやテクノロジーについてグローバルな視点から理論・歴史的調査を進め、国内外でその成果発表を行った。アーカイブ部門では、アジア・欧米を視野に入れつつ比較社会的な観点からメディア研究に取り組むことで、リサーチ部門と相補的となる成果を数多く発表した。そしてクリエイション部門では、ICTを活用した学習ツールや、共生社会を見据えたインタラクティブメディアの開発、先端映像技術の国際会議 SIGGRAPH Asia や国際学会 ArtsIT での発表などを通じて、先端的な映像技術を日常生活や社会体制に関連する諸問題の解決へと応用する実践活動を行った。こうした活動は、次年度以降に、他部門で得られた知見との融合に向けた準備となるものでもある（各部門における個別研究の具体的な成果については「III. 研究業績」を参照）。

CMRCではこれら三部門における個別研究をふまえ、センター長の統括のもと各部門の知見と問題点、さらに今後の目標について議論を重ね、部門間の連携を積極的に推進した。そしてその成果を学外者に共有することで、最先端に位置するメディア研究者が客員協力研究員としてCMRCに参加し、国内外に点在する総勢25名に及び研究者やアーティストのグローバルなネットワーク化が進められ、次年度以降を見据えた研究体制を構築することに成功した。

②国際ワークショップの開催

上記の研究体制構築による特筆すべき成果として、サブスクリプション型映像配信（SVOD）をめぐる国際ワークショップ“Subscription Video-on-Demand in East Asia: Its Impact on Regional Production and Distribution”の開催が挙げられる（2019年12月14、15日、立命館大学衣笠キャンパス）。本ワークショップは、新たなメディア環境を生み出しつつあるSVODのグローバルな展開について、またそれと並行して進展する、アジアの諸地域の固有性に根ざしたローカリゼーションの実態について探求することを目的としたものである。基調講演者には、このテーマに関連する最新の研究成果である *Netflix Nations* の著者 Ramon Lobato 氏およびメディア産業の最前線で活躍する Julian Lai-Hung 氏を招聘した。これは、研究者のみならず異なる分野の専門家やクリエイティブ産業の従事者なども自由に参加できる、開かれた場を目指すCMRCの方針を反映したものである。その結果もあり、会場にはリサーチ部門とアーカイブ部門のメンバーを中心に、さまざまな分野や世代に属する40名以上の参加者が訪れワークショップは活況を呈した。また国内外から参加した11名の登壇者による研究発表では、上述のグローバリゼーション/ローカリゼーションという観点に加え、オンライン型の映像配信を可能にするインフラストラクチャーやロジスティクスといった物質的な水準が議論の中心となった。この点で本ワークショップの開催は、上述の三部門による緊密な連携の成果といえる。また登壇者15名のうちには、CMRC構成員である大山真司氏の指導する大学院生4名も含まれており、研究発表の場および研究者間のグローバルな交流の機会の提供という点で、大学院生の育成やキャリア形成にも貢献した。

このように本ワークショップは、国内外に対するCMRCの研究成果発信のみならず、アジア・欧米を視野に入れたメディア研究の推進、グローバルなネットワークの構築、文理を問わない領域横断的な研究、さらには若手研究者の育成という点で、CMRCの意義が十分に確認される成果となった。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
センター長	北野 圭介	映像学部	教授
運営委員	大島 登志一	映像学部	教授
	北村 順生	映像学部	准教授
	大山 真司	国際関係学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	望月 茂徳	映像学部	准教授
	竹村 朋子	映像学部	准教授
	宋 基燦	映像学部	准教授
	増田 展大	映像学部	講師
	福間 良明	産業社会学部	教授
	飯田 豊	産業社会学部	准教授
	松島 綾	産業社会学部	准教授
	トゥニ・クリストフ	グローバル教養学部	准教授
	マーティン・ロート	先端総合学術研究科	准教授
学内の若手研究者	専門研究員・研究員		
	補助研究員・リサーチアシスタント		
	大学院生		
	学振特別研究員(PD・RPD)		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)			
客員協力研究員	伊藤 守	早稲田大学教育・総合科学学術院	教授
	Zahlten, Alexander	ハーバード大学東アジア言語・文明学部	准教授
	田畑 暁生	神戸大学大学院人間発達環境学研究科	教授
	番場 俊	新潟大学人文学部	教授
	Steinberg, Marc	コンコルディア大学	准教授

	前川 修	神戸大学人文学研究科	教授
	松谷 容作	國學院大學文学部	准教授
	水嶋 一憲	大阪産業大学経済学部	教授
	毛利 嘉孝	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科	教授
	吉田 寛	東京大学大学院人文社会系研究科	准教授
	依田 富子	ハーバード大学東アジア言語・文明学部	教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	藤幡 正樹	映像学部	客員教授
研究所・センター構成員 計 25 名 (うち学内の若手研究者 計 0 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2020年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	大山真司	クールジャパンって本当にクールなの？	共著	2020年3月	世界思想社、基礎ゼミメディアスタディーズ	石田佐恵子、岡井崇之	PP. 104~113
2	飯田豊	メディア論の地層——1970大阪万博から2020東京五輪まで	単著	2020年2月	勁草書房		全281頁
3	飯田豊	趣味とジェンダー——〈手づくり〉と〈自作〉の近代	共著	2019年6月	青弓社	神野由紀・辻泉(共編)	PP. 13~32, 311~340
4	伊藤守	序——ポスト・ヒューマンの時代のメディア研究、デジタルメディア環境の生態系と言説空間の変容	共著	2019年9月	東京大学出版会、コミュニケーション資本主義と〈コモン〉の探求 ポスト・ヒューマン時代のメディア論	水嶋一憲ほか	PP. V~XII, 3~34
5	田畑暁生	マイケル・バックランド『新・情報学入門』	単訳	2020年3月	日本評論社		全213頁
6	田畑暁生	デイヴィッド・ライアン『監視文化の誕生』	単訳	2019年5月	青土社		全283頁
7	番場俊	<顔の世紀>の果てに——ドストエフスキー『白痴』を読み直す	単著	2019年4月	現代書館		全220頁
8	前川修	イメージを逆撫でする写真論講義：理論編	単著	2019年8月	東京大学出版		全324頁
9	水嶋一憲	コミュニケーション資本主義における個人と集団の変容	共著	2019年9月	東京大学出版会、コミュニケーション資本主義と〈コモン〉の探求 ポスト・ヒューマン時代のメディア論	伊藤守(編著)	PP. 35~60
10	毛利嘉孝	バンクシー アート・テロリスト	単著	2019年12月	光文社		全328頁
11	毛利嘉孝	資本主義リアリズムからアシッド共産主義へ	共著	2019年9月	東京大学出版会、コミュニケーション資本主義と〈コモン〉の探求 ポスト・ヒューマン時代のメディア論	伊藤守(編著)	PP. 241~265

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	北野圭介	身体、情報、世界——	単著	2019年11	岩波書店、思想、1148		PP. 102~	無

		情報哲学入門(2)		月			122	
2	大島登志一	空中像ディスプレイを用いたバーチャルな炎色反応実験教材の研究	共著	2020年3月	情報処理学会インタラクシオン2020 論文集	西元魁	PP. 682 ~ 686	無
3	Toshikazu Ohshima	HaptoBOX: multi-sensory physical interface for mixed reality experience	共著	2019年11月	Proceedings of SIGGRAPH Asia 2019 Posters	Kiichiro Kigawa	Article No. 13	有
4	Toshikazu Ohshima	Code Weaver : a tangible programming learning tool with mixed reality interface	共著	2019年11月	Proceedings of SIGGRAPH Asia 2019 Posters	Ren Sakamoto	Article No. 11	有
5	大島登志一	MR Code Weaver: 投影型ミクストリアリティによるタンジブルなプログラミング学習ツール(2)	共著	2019年9月	エンタテインメントコンピューティングシンポジウム2019 論文集	坂本恋	PP. 368 ~ 373	無
6	大島登志一	HaptoBOX: 複合現実体験を増強する多感覚型インタフェースの研究(2)インタラクシオン機能の拡張	共著	2019年9月	エンタテインメントコンピューティングシンポジウム2019 論文集	木川貴一郎	PP. 362 ~ 367	無
7	Shinji Oyama	In the Closet : Japanese Creative Industries and their Reluctance to Forge Global and Transnational Linkages in ASEAN and East Asia	単著	2019年8月	ERIA Discussion Paper Series		Discussion Paper no 295	有
8	竹村朋子	日本におけるテレビ視聴行動と Twitter 利用行動の関係——視聴番組決定と番組視聴体験共有における SNS の役割について	単著	2020年1月	日本比較文化学会, 比較文化研究, 138号		PP. 59~68	有
9	Nobuhiro Masuda	Chronophotography and Plasmatic Cinema	単著	2019年8月	近畿大学文芸学部、文学・芸術・文化：近畿大学文芸学部論集、第31巻第1号		PP. 59~67	有
10	増田展大	アニメーションの皺——身体造形の形態学的分析を通じて	単著	2019年8月	暨南大学外国語学院、外語論叢、3(2)		PP. 161 ~ 167	有
11	飯田豊	SNS をめぐるメディア論的思考——常時接続社会におけるマスメディアとの共振作用	単著	2020年3月	電子情報通信学会, 通信ソサイエティマガジン B-plus, 52号		PP. 276~281	無
12	飯田豊	拡張現実 (AR) の現在地——渋谷から考える	単著	2020年3月	大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所, CEL, 124号		PP. 20~25	無
13	飯田豊	磯崎新のメディア論的思考——マクルーハン、環境芸術、大阪万博	単著	2020年2月	青土社, 現代思想, 2020年3月臨時増刊号		PP. 227~241	無
14	飯田豊	メディアのなかの考現学——アカデミズムとジャーナリズム、エンターテインメントの狭間で	単著	2019年6月	青土社, 現代思想, 2019年7月号		PP. 135~145	無

15	飯田豊	ザ・テンパターズからの飛躍——萩原健一の源流	単著	2019年6月	青土社, ユリイカ, 2019年7月臨時増刊号		PP. 40~52	無
16	松島綾	認識可能性の描線——『狂気の歴史』の読みを通じたレトリック再考——	単著	2019年5月	日本コミュニケーション研究, 47巻2号		PP. 67~86	有
17	Thouny Christophe	The Global University and Planetary Education	単著	2019年12月	Brill, Bringing Forth a World: Engaged Pedagogy in the Japanese University	Joff Bradley, Charles Cabel & David Kennedy (eds.)	PP. 187~204	有
18	Zahlten, Alexander	<i>Doraemon and Your Name in China: the complicated business of mediatized memory in East Asia</i>	単著	2019年6月	Screen, 60(2)		PP. 311~321	有
19	田畑暁生	中国山地地方における地域情報化政策	単著	2019年9月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 13巻1号		PP. 37~51	無
20	前川修	セルフ理論: 顔、腕、情動のエコノミー	単著	2020年3月	神戸大学芸術学研究室、美学芸術学論集, 16号		PP. 5~43	有
21	松谷容作	宇宙から地球をながめる	単著	2019年12月	國學院大學、國學院雑誌、120(12)		PP. 1~19	無
22	松谷容作	<i>Deleuze's Cinema and Lumière Films</i>	単著	2019年8月	近畿大学文芸学部、文学・芸術・文化: 近畿大学文芸学部論集、第31巻第1号		PP. 68~73	有
23	松谷容作	ポストメディア状況以後の日本のアートの営み——ポストインターネットとグローバルアートの視座で	単著	2019年6月	暨南大学外国語学院、外語論叢、3(1)		PP. 153~160	有
24	水嶋一憲	転形期の未来: 新反動主義かアシッド共産主義か	単著	2019年6月	青土社、現代思想、47(8)		PP. 54-66	無
25	吉田 寛	デジタルゲーム研究は美学にとってなぜ重要か	単著	2020年3月	東京大学文学部次世代人文学開発センター、文化交流研究東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要、第33号		PP. 71~81	無
26	吉田 寛	ゲームと思想	単著	2020年2月	文化庁、『メディア芸術・研究マッピング ゲーム研究の手引きII』	松永伸司編	PP. 64~69	無
27	吉田 寛	機械にゲームができるのか?	単著	2019年8月	京都大学こころの未来研究センター、こころの未来、第21号		PP. 18~21	無
28	吉田 寛	ゲーム研究をめぐる困難	単著	2019年5月	合同会社ニューゲームズオーダー、多元化するゲーム文化と社会	松井広志・井口貴紀・大石真澄・秦美香子編	PP. 343~346	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	北野圭介	「情報」概念の基礎論的考察	2020年2月	R-GIRO 立命館グローバル・イノベーション研究機構「次世代人工知能と記号学の国際融合研究拠点」プロジェクト 人とAIの調和が導く未来社会に向けたアプローチ、立命館大学大阪いばらきキャンパス	増田展大
2	大島登志一	空中像ディスプレイを用いたバーチャルな炎色反応実験教材の研究	2020年3月	情報処理学会インタラクション 2020, オンライン会議	西元魁
3	Toshikazu Ohshima	HaptoBOX: multi-sensory physical interface for	2019年11月	SIGGRAPH Asia 2019, Brisbane, Australia	Kiichiro Kigawa

		mixed reality experience			
4	Toshikazu Ohshima	Code Weaver: a tangible programming learning tool with mixed reality interface	2019年11月	SIGGRAPH Asia 2019, Brisbane, Australia	Ren Sakamoto
5	大島登志一	MR Code Weaver: 投影型ミクストリアリティによるタンジブルなプログラミング学習ツール(2)	2019年9月	エンタテインメントコンピューティングシンポジウム 2019, 九州大学	坂本恋
6	大島登志一	HaptoBOX: 複合現実体験を増強する多感覚型インタフェースの研究(2)インタラクション機能の拡張	2019年9月	エンタテインメントコンピューティングシンポジウム 2019, 九州大学	木川貴一郎
7	望月茂徳	ゴミ分別を促すインタラクティブゴミ箱	2020年3月	インタラクション2020 第24回一般社団法人情報処理学会シンポジウム, 学術総合センター/一橋大学一橋講堂 (新型コロナウイルスによりオンライン開催へ変更)	丁尔礫, 斎藤進也
8	望月茂徳	インタラクティブな時間操作を伴う映像インスタレーションの制作	2020年3月	インタラクション2020 第24回一般社団法人情報処理学会シンポジウム, 学術総合センター/一橋大学一橋講堂 (新型コロナウイルスによりオンライン開催へ変更)	陳品瑜, 斎藤進也
9	Shigenori Mochizuki	Interactive Arts and Disability: A Conceptual Model Toward Understanding Participation	2019年11月	ArtsIT 2019 – 8th EAI International Conference: ArtsIT, Interactivity & Game Creation Aalborg University, Denmark	Jonathan Duckworth, James Hullick, Sarah Pink, Christine Imms, Peter H. Wilson:
10	宋基燦	対立の時代、人類学の可能性——人類学者の現実参与と省察的人類学——	2019年9月	陽月講座	
11	Kichan Song	Identity Embodied : A Study on the ‘Korean Ethnic Dance’ of Korean Ethnic Schools in Japan	2019年8月	The 14th ISKS International Conference of Korean Studies, Charles University, Czech Republic	
12	宋基燦	韓国における朝鮮学校卒業生の生活とアイデンティティ——「朝鮮舞踊」の実践を中心として——	2019年6月	日本文化人類学会第53回研究大会、東北大学	
13	宋基燦	在日朝鮮学校の事例からみる「心的転換」の日常実践と朝鮮半島統一のための新たな知恵	2019年5月	朝鮮半島の平和への「心的転換」: 理論と実際	
14	Tomoko Takemura	Media Repertoires of Japanese Old Users in the Digital Media Environment	2019年6月	30th ITS European Conference, Finland	
15	増田展大	「情報」概念の基礎論的考察	2020年2月	R-GIRO 立命館グローバル・イノベーション研究機構「次世代人工知能と記号学の国際融合研究拠点」プロジェクト 人とAIの調和が導く未来社会に向けたアプローチ、立命館大学大阪いばらきキャンパス	北野圭介
16	増田展大	イリュージョンとモデリング——科学における生命付与(アニメーション)について	2019年5月	日本記号学会第39回大会「アニメ的人間——ホモ・アニマトゥス」(第3セッション「アニメーションはアニミズムか——アニメ的人間の未来」)、早稲田大学	
17	飯田豊	フィルムから ENG へ——ニュース生産における送り手の文化と慣習を巡る人類学的研究	2020年2月	ビデオの文化資源学、大東文化会館	林田真心子
18	飯田豊	メディア研究をめぐる組織と時間——学会将来構想	2019年10月	日本マス・コミュニケーション学会 秋季研究発表会、江戸川大学	大澤聡, 江渡浩一郎, 水越伸

		はいかにして可能か			
19	松島綾	可視／不可視性の表象とエビステーム	2019年6月	日本コミュニケーション学会第49回大会、二松学舎大学（東京）	
20	Thouny Christophe	Using Parks: Imperial Cartography/Atmospheric Assemblages	2019年12月	DARE 2019 Machinic Assemblages of Desire, Orpheus Institute (Ghent)	
21	Thouny Christophe	Climate Change and Narratives	2019年12月	ATN Workshop – Unpredictable Weather, 東京大学本郷キャンパス	Vincenz Serrano
22	Thouny Christophe	For a Tentacular Theory of Animation: Symptomatic Reading and Speculative Writing	2019年11月	Anime Symposium, 早稲田大学	
23	Thouny Christophe	From Macross to Made in Abyss: The Planetary Imagination of Postwar Japanese Popular Culture	2019年11月	Guest Lecture, 長崎大学	
24	Thouny Christophe	Planetary Atmospheres of Fukushima Japan	2019年9月	WISE, University of the Witwaterstrand (Johannesburg). Guest Lecture	
25	Thouny Christophe	Sword Arts Online : The Asian Megacity as Platformed Reality	2019年8月	Guest Lecture, Chulalongkorn University.	
26	Thouny Christophe	Made in Abyss : Psychopolitics, Kawaii Consumption, and Planetary Localities	2019年7月	MLA, Universita of Catolica Portuguesa (Lisbon)	
27	Thouny Christophe	Postwar Japanese Masses and the End of the Social	2019年7月	AAS in Asia Conference – Bangkok Panel organizer & Presenter: Reading Yoshimoto Takaaki in 2018: Postwar Asia and Ecological Thinking	
28	Thouny Christophe	Planetary Thinking?	2019年6月	Deleuze and Guattari Studies in Asia 7th Conference, 東京大学駒場キャンパス	
29	Thouny Christophe	Urban Masses, Fascist Atmospheres and the End of the Social	2019年5月	ATN Workshop – Global Fascisms, Seoul	
30	Satoshi Bamba	Referring to the Face: Dostoevsky's The Idiot in the History of Physiognomy	2019年7月	XVII Symposium of the International Dostoevsky Society, Boston University	
31	Steinberg, Marc	16 Propositions on the Value of Anime Studies	2019年11月	Waseda Anime Symposium: Theorizing Anime: Invention of Concepts and Conditions of Their Possibility, 早稲田大学	
32	Steinberg, Marc	Platform Worlds	2019年10月	Leuphana University, Luneburg, Germany	
33	Steinberg, Marc	Producing Intimacy: Characters and/as Mobile Media	2019年10月	Keynote lecture for “Emotional Attachment to Machines: New Ways of Relationship-Building in Japan,” Freie Universität, Berlin	
34	Steinberg, Marc	The Platform Economy and Chat Apps	2019年10月	Invited lecture at Dickinson College, Pennsylvania	
35	Steinberg, Marc	プラットフォーム資本主義とメディア表現	2019年8月	メディア論、メディア表現とファン文化、国際日本文化研究センター・大衆文化研究プロジェクト・MANGA labo 7、最先端メディア論講座シリーズ1・公開ワークショップ、国際日本文化研究センター	
36	Steinberg, Marc	From Japanese Platform Theory to Platform Capitalism	2019年7月	Invited lecture at Yokohama National University	
37	Steinberg, Marc	The Platform Economy and Japan	2019年7月	Invited research talk at the Platform Literacy Research Group, 東京大学	

38	Steinberg, Marc	From Japanese Platform Theory to Platform Capitalism	2019年7月	Invited lecture at the Research Institute of Information Technology and Management, 早稲田大学	
39	Yosaku Matsutani	A Perspective about Human Experience and Sensibility in the Coming Space Life: Based on an Analyze of Research Results on the Body and Mind of the Astronauts	2019年7月	ICA 2019 Belgrade; 21 st International Congress of Aesthetics	
40	水嶋一憲	ポスト・メディア時代の未来	2020年2月	日本マス・コミュニケーション学会第37期第3回研究会(理論研究部会企画)、桃山学院大学梅田サテライト	前田至剛(討論者)、長崎励朗(司会)
41	Kazunori Mizushima	Do users dream of commoners? : As a response to 'how to become aware of the existence of media platforms'	2019年9月	Platform Cooperativism Symposium with Trebor Scholz, 東京大学本郷キャンパス	
42	Kazunori Mizushima	Beyond Sinofuturism and AI capitalism	2019年8月	IACS Conference 2019, Silliman University	
43	Kazunori Mizushima	On Post-Media Futurability	2019年7月	POST-MEDIA ECOLOGIES in Asia, Beijing Normal University	
44	Yoshitaka Mori	Emerging Alternative Cultural Space in Japan within Transnational Contexts	2019年12月	Living in the Age of Convergences: Affect, Affordance, Agency, National Library/National University of Singapore	
45	Yoshitaka Mori	Mobility and Space: Alternative Spaces in Asia	2019年10月	Asia Cultural Forum (ACF), Asia Culture Center, Guwangju, Korea	
46	Yoshitaka Mori	Post-Media Ecologies and their Practices	2019年8月	Inter-Asia Cultural Studies (IACS) Society Conference, Silliman University, Dumaguete, Philippines	
47	Hiroshi Yoshida	再媒介化的遊戯	2019年11月	2019 台湾人文學社年會「人文之「後」國際研討會」、國立中興大學、台中、台湾	
48	Hiroshi Yoshida	Emulation at Play	2019年10月	9th International Conference on Eastern Aesthetics, Hubei University, Wuhan, China	
49	Hiroshi Yoshida	Conditions and Effects of "Games in Games" in Video Games	2019年7月	21st International Congress of Aesthetics, University of Belgrade, Belgrade, Serbia	
50	Hiroshi Yoshida	The Aesthetics of Retrogaming	2019年6月	Pixel-Art und Chiptunes, Hochschule für Musik und Theater »Felix Mendelssohn Bartholdy« Leipzig, Leipzig, Germany	

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	SUBSCRIPTION VIDEO-ON-DEMAND IN EAST ASIA : ITS IMPACT ON REGIONAL PRODUCTION AND DISTRIBUTION OF MEDIA CONTENTS	立命館大学平井喜一郎記念図書館カンファレンスルーム	2019年12月	40名	国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科(社会・文化・メディア)
2	Planetary Love – Postwar Asian Urban Culture Workshop Disappearance: Forensic, Mass Culture and Civil War	キャンパスプラザ京都	2020年1月	10名	立命館大学グローバル教養学部
3	Planetary Love Workshop 2019 Non-human Atmospheres: Eisenstein, Painlevé and Farocki	立命館大学大阪いばらきキャンパス	2019年5月	10名	立命館大学グローバル教養学部

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	望月茂徳	ワークショップ開催『インクルーシブなデジタルデザイン～未来の体験をソウゾウする～』	FUJITSU Knowledge Integration Base PLY OSAKA	2020年2月17日
2	宋基燦	国会パブリックビューイング——日韓の未来について考える	立命館生協ブックセンターふらっと	2019年11月
3	増田展大	国際ワークショップ報告 SUBSCRIPTION VIDEO-ON-DEMAND IN EAST ASIA: ITS IMPACT ON REGIONAL PRODUCTION AND DISTRIBUTION OF MEDIA CONTENTS	クリエイティブ・メディア研究センターウェブサイト (https://creativemediaresearchcenter.tumblr.com/post/189858621836/国際ワークショップ報告)	2019年12月
4	飯田豊	テレビ草創期のCMを多角的に解明する——考古学的アプローチから見えてくる初期CMの全体像（高野光平『発掘！歴史に埋もれたテレビCM——見たことのない昭和30年代』（光文社新書）書評）	週刊読書人，第3305号（2019年9月6日号）	
5	飯田豊	参院選からみたテレビ報道——新しい番組フォーマットの開発を	民間放送，2019年9月3日号	
6	飯田豊	N国が話題の中、NHK「常時同時配信」が放送業界全体に与える衝撃	講談社，現代ビジネス，2019年8月	
7	飯田豊	平成の日本美術史 30年総覧	美術手帖，2019年6月号，立石祥子と時事年表作成+時事解説	
8	飯田豊	19世紀からポスト真実／識別より「耐える力」重要（佐藤卓己『流言のメディア史』（岩波新書）書評）	週刊東洋経済，2019年5月号	
9	藤幡正樹	ディアローグ・イベント：Yuk Hui氏（哲学者）×藤幡正樹	東京画廊+BTAP	2019年8月21日
10	藤幡正樹	ディアローグ・イベント：黒瀬陽平氏（美術家、美術批評家）×藤幡正樹	東京画廊+BTAP	2019年7月27日
11	藤幡正樹	アーティストトーク	東京画廊+BTAP	2019年7月20日
12	藤幡正樹	展覧会「E. Q.」	東京画廊+BTAP	2019年7月6日～8月31日

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	松島綾	日本コミュニケーション学会	最優秀論文賞	認識可能性の描線——『狂気の歴史』の読みを通じたレトリック再考——	2019年6月

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	北野圭介	イメージの物質性に関する理論的言説の調査研究	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
2	北村順生	映像アーカイブの教育活用によるサーキュレーション型文化創造に関する実践的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
3	大山真司	Subscription Video On Demand in Japan and East Asia: its impact on national and transnational production and distribution of media contents	基盤研究(C)	2019年4月	2020年3月	代表
4	大山真司	ポストメディア文化研究の理論構築: 創造産業論の日英比較を中心に	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	分担
5	望月茂徳	共生型高付加価値社会におけるインクルーシブなインタラクティブメディアの開発	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
6	増田展大	アウトースペース／インナースペース／	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	分担

		インタースペース・アートの美学				
7	増田展大	ポストヒューマン主義の時代における芸術学の再構築に向けた総合的研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
8	増田展大	メディア文化における「孤独」の系譜	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
9	福間良明	転換期としての「昭和50年代」と大衆メディア文化の変容	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	代表
10	福間良明	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担
11	福間良明	現代の戦争研究と総力戦研究とを架橋する学際的戦争社会学研究領域の構築	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担
12	飯田豊	初期CATVの自主放送をめぐる思想と実践——メディアの考古学および民俗学の視座から	基盤研究(C)	2019年4月	2024年3月	代表
13	飯田豊	万国博覧会に見る「日本」——芸術・メディアの視点による国際比較	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
14	飯田豊	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担
15	飯田豊	メディア・イベント概念の理論的再構築——歴史社会学および比較文化学からのアプローチ	若手研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
16	伊藤守	「ソーシャルメディア型」の世論形成と情動現象の総合的研究	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	代表
17	伊藤守	ポストメディア文化研究の理論構築:創造産業論の日英比較を中心に	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	代表
18	番場俊	ロシア・旧ソ連文化におけるメロドラマ的想像力の総合的研究	基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	分担
19	番場俊	カタストロフィの想像力:ドストエフスキー文学の現代的意味とその世界展開	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	分担
20	番場俊	顔と身体の統御——ロシアにおける記号論の二つのパラダイムに関する研究	基盤研究(C)	2016年4月	2021年3月	代表
21	前川修	アウトースペース/インナースペース/インタースペース・アートの美学	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
22	松谷容作	メディア文化における「孤独」の系譜	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
23	松谷容作	グローバル化時代の映像社会学の課題と展開——映像アーカイブを用いた共有知の研究——	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	分担
24	松谷容作	アウトースペース/インナースペース/インタースペース・アートの美学	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	分担
25	松谷容作	ポストヒューマン主義の時代における芸術学の再構築に向けた総合的研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
26	水嶋一憲	グローバル制御社会におけるメディア・技術・資本主義の新たな連関に関する学際研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
27	水嶋一憲	ポストメディア文化研究の理論構築:創造産業論の日英比較を中心に	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	分担
28	毛利嘉孝	デジタルメディア時代の文化と生活様式の比較文化研究と社会学	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2019年10月	2023年3月	代表
29	毛利嘉孝	プレーポストオリンピック期東京における世界創造都市の積層と接続に関する比較社会学	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	分担
30	毛利嘉孝	ポストメディア文化研究の理論構築:創造産業論の日英比較を中心に	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	代表
31	吉田寛	脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究	基盤研究(A)	2019年4月	2022年3月	分担
32	吉田寛	没入(イマージョン)概念の美学的再検討	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	飯田豊	2018年サッカーW杯におけるパブリック・ビューイングの研究	放送文化基金	2018年4月	2020年3月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1	該当なし。							